

優良な協働事例の紹介

～産学官協働による建設産業の担い手確保に向けた現場見学会の開催～

建設産業の担い手育成・確保を目指し、都城農業高等学校と都城地区建設業協会青年部と都城土木事務所の三者が協働し、都城農業高等学校の生徒を対象とした工事現場の現場見学会及び写真撮影会を協働の仕組みを生かし開催しました。

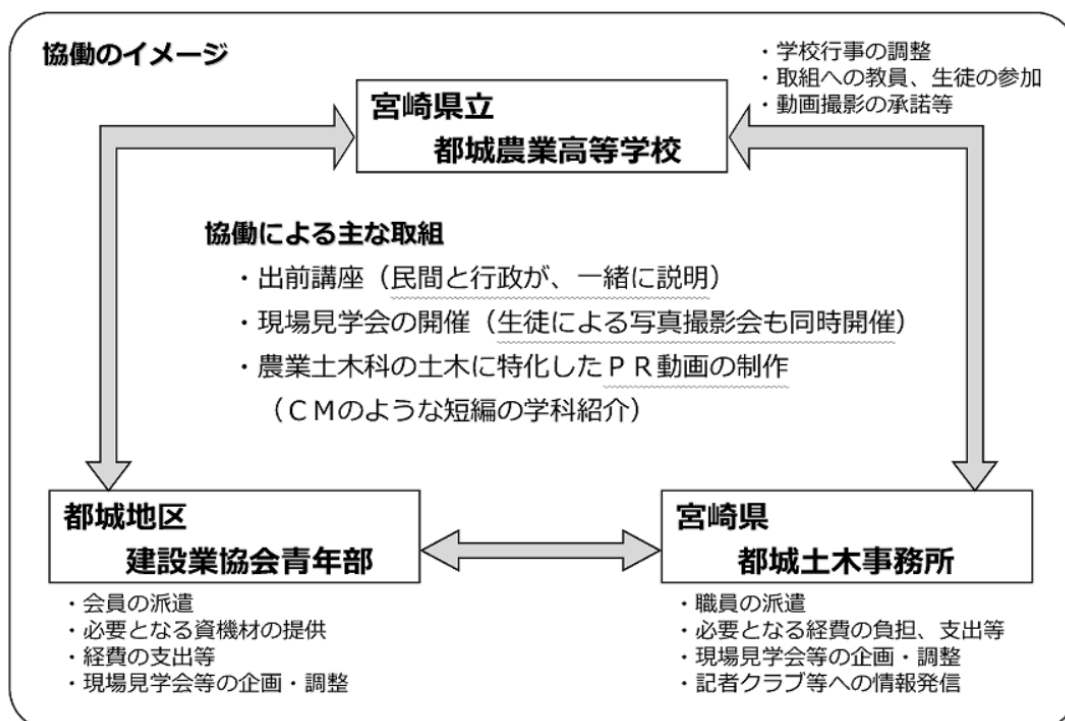
今回、都城建設業協会青年部 木協部長、
宮崎県都城土木事務所 岩切技師
にお話を伺いましたので、優良な協働事例として紹介します。

1. 経緯

建設産業では、担い手育成・確保が喫緊の課題となっていることから、これまでも官民連携して様々な取組を実施してきたが、内容がマンネリ化していた。

担い手育成・確保のためには、まずは建設産業に興味を持ってもらうことが重要であることから、都城農業高等学校と都城地区建設業協会青年部と都城土木事務所の三者が同じ目的を持って協力し、効率的に役割分担をしながら、工事現場の現場見学会及び写真撮影会を開催した。

次の図のように意識して「協働」し、連携の強化を図った。



2. 事業内容

① 工事現場の見学会及び写真撮影会

宮崎県立都城農業高等学校農業土木科の1年生を対象に、株式会社志多組が施工する横市橋橋梁上部工事の現場見学会を実施した。現場で作業をしている方の姿や説明を生で見聞きすることによって、建設産業の仕事について知る機会を提供し、建設産業の楽しさ、魅力を伝えた。生徒にとって進路を考える良い機会だったなど、好評の声が多方面から聞くことができた。

また、見学会のほか、学校の協力により、生徒個人のスマートフォンの使用について、「引率教師の監督下において使用を許可する」との判断をしていただき、当日は、参加したほとんどの生徒が自分のスマートフォンで撮影をすることができた。（生徒には、(公財)宮崎県建設技術推進機構が例年開催しているフォトコンテストへの応募について案内し、2名が受賞した。）

さらに、生徒41名がレンズ付きフィルムカメラ（使い捨てカメラ）を用いて、工事現場の写真を撮影する写真撮影会を同時開催し、撮影した1,089枚の写真の中から、優秀な作品5点を表彰した。



② PR動画の作成

進路に悩む中学生や保護者等に対して、土木に興味を持ってもらうきっかけを創出するため、オープンスクール等で活用できるように、土木に特化した宮崎県立都城農業高等学校農業土木科のPR動画を制作した。



3. 協働についてインタビュー

① 協働のポイント

- 都城農業高等学校に通う生徒の進路は、建設産業の進路が多く、公務員と建設業協会は同じパイ（農業土木系の高校生など）から担い手を確保し合う、言わば「ライバル関係」である。今回、都城土木事務所と建設業協会青年部と一緒に建設産業の魅力を伝えることで、建設産業の全体像を隙間なく生徒に伝えることができ、生徒の進路決定にとって貴重な機会となった。
- 担い手・育成確保の課題に対し、まずは建設産業に興味を持ってもらい、将来

的に土木関係の職につく可能性のある学生を増やすことが重要であるということ
を、三者それぞれが共通認識を持って協働できた。

- 日頃から仕事で関わりがあり、お互いの強みを理解していることで、それぞれの長所を生かした役割分担等を「協働の枠」にはめ込むことができた。
- これまで以上に、協働相手との関係強化に繋がった。
- 三者それぞれが「自分たちがやった」と発信できるほど、責任をもって行った。

②協働する上で留意した点と対応策

- 三者とも忙しいため、メールでのやりとりを主とし、密に連絡を取り、3者で情報を共有して実施した。
- 協働の相手の強みを生かした役割分担を行った。
- 事前にやることをしっかりと決めて、責任感を持ってお互いがやることはやるという意識を持つことを大切にしました。

③今後について

翌年もぜひ実施して欲しいという話があるので、今回実施したノウハウを生かし、三者で連携・協力して実施したい。

都城だけではなく、他の地域にも派生させていき、宮崎県全体で建設産業を盛り上げていきたい。

